

Title	センターの25年の歩み
Author(s)	出口, 弘
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1994, 93, p. 10-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66065
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

センターの25年の歩み

大阪大学大型計算機センター研究開発部
出口 弘
deguchi@center.osaka-u.ac.jp

常に時代の最先端の計算機資源とサービスを提供してきたセンターの歴史を、導入されてきた計算機システムの写真¹⁾と共に振り返ってみたい。

- 昭和37年 4月 大阪大学計算機センター発足（予算化）
昭和38年 5月 日本学術会議が「全国共同利用大型計算機センターの設置」を政府に勧告
昭和41年10月 計算センター建物豊中地区に建設
（2階建、延面積735m²）
11月 NEAC2200モデル500搬入



- 昭和42年 4月 バッチサービス開始
9月 NEAC2200モデル200、通信制御装置及び周辺機器搬入
11月 東野田地区（工学部）、中之島地区（医学部附属病院）にデータ・ステーションを設置
昭和43年 1月 阪大MAC（TSS）システムサービス開始
8月 大型計算機センター共同利用準備委員会設立
10月 全国共同利用サービス開始（暫定措置）
昭和44年 4月 大阪大学大型計算機センター設置
8月 高木修二教授初代センター長に就任
昭和45年 9月 NEAC2200モデル500増設
昭和47年 3月 大型計算機センター建物を吹田地区に建設
（地下1階、地上3階、延面積3,604m²）
NEAC2200モデル700（1号機）
NEAC2200モデル500
NEAC2200モデル500、2セット豊中地区より移設
自動製図装置（ドラフター）搬入
4月 大型計算機センター吹田地区に移転、業務開始
吹田地区データ・ステーションを豊中地区に移設
昭和48年 9月 利用者ファイル（バッチ用）サービス開始

¹⁾ 協力：日本電気（株）

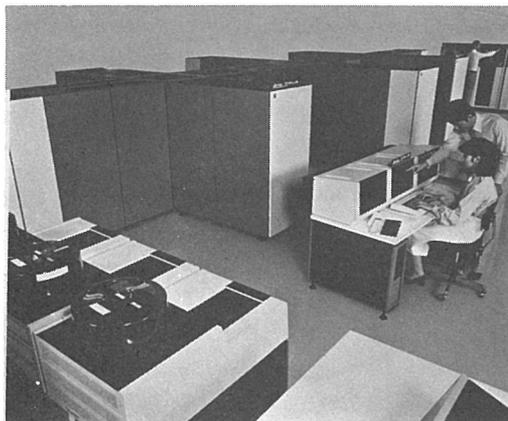
- 昭和49年 8月 NEAC2200モデル700(2号機)搬入
 9月 オープンバッチサービス、利用者入力サービス開始
 昭和50年 3月 リモートバッチサービス開始(阪大RJE手順)
 8月 NEAC2200モデル700(2号機)メモリ増設
 12月 クロスコール機構によるNEAC2200モデル700間のファイル共有開始
 昭和51年 3月 NEAC2200モデル700(1号機)夜間省力化運転サービス開始
 9月 ACOSシステム700搬入



- 10月 同システムによるTSSサービス開始、公衆網サービス開始
 昭和52年12月 ACOSシステム800モデル1搬入



- 昭和53年 1月 同システムによるバッチ及びTSSサービス開始
 3月 同システムをモデル2に強化
 10月 ACOSシステム900モデル2搬入

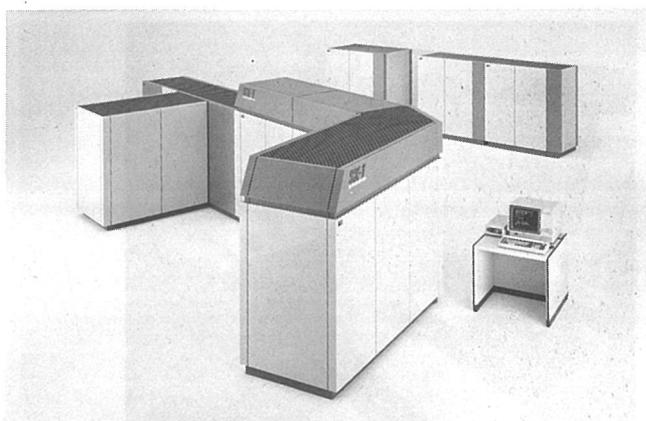


- 11月 たんぱく質データベース(PROTEIN-DB)のサービス開始

- 昭和54年 4月 三次元カラーグラフィックディスプレイ、手書きOCR、フロッピーディスク、デジタルプロッタ、サービス開始
 5月 大阪大学大型計算機センター創立10周年記念式典
 8月 関谷全教授センター長に就任
 昭和55年 3月 入出力棟増築(地上2階、延面積323m²)
 4月 地球学データベース(GEODAS)のサービス開始
 計算機利用相談データベース(CONSALTANT)のサービス開始
 8月 ACOSシステム900モデル2増設
 昭和56年10月 大学間ネットワークのサービス開始
 12月 ACOSシステム1000モデル20搬入

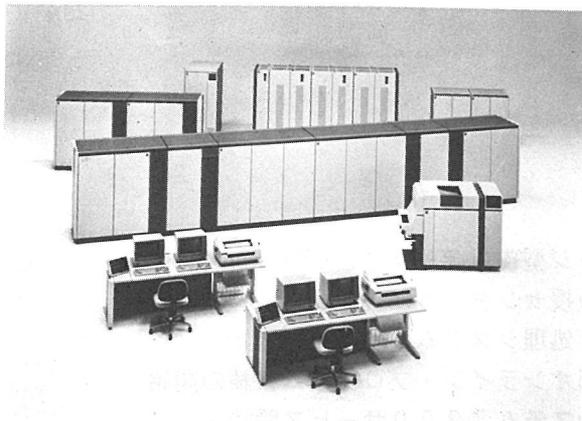


- 昭和57年 5月 極四極共鳴スペクトルデータベース(NQR)のサービス開始
 ACOSシステム1000モデル20増設
 9月 日本科学映像データベース(JSR)のサービス開始
 音声データベース(SPEECH-DB)のサービス開始
 10月 ACOSシステム1000によるMDFサービス開始
 昭和58年 8月 小泉光恵教授センター長に就任
 昭和60年 1月 高速フォートランプロセッサ(HFP)サービス開始
 3月 ポートセクタサービス開始
 9月 学生実態調査のデータベース(YARUKI)のサービス開始
 10月 生物分野文献データベース(BIOSIS)サービス開始
 昭和61年 2月 第2種パケット交換のサービス開始
 4月 共通利用番号制実施
 6月 スーパーコンピュータSX-1サービス開始

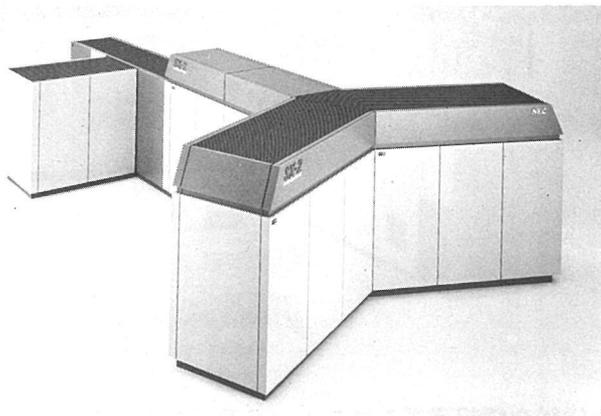


- 12月 大阪大学学術雑誌データベース(OULJ)のサービス開始

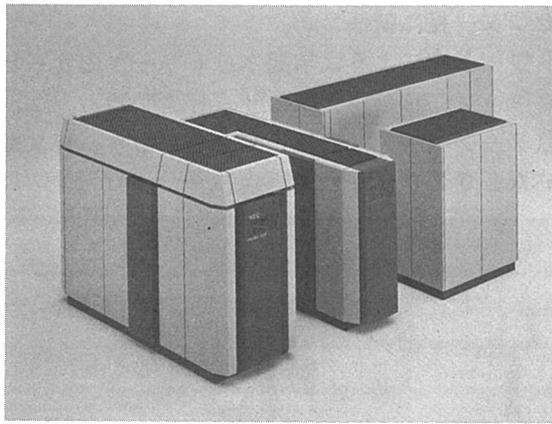
- 昭和62年 4月 山田朝治教授センター長に就任
 学術情報ネットワーク網による大学間ネットワークのサービス開始
 電気化学データベース (ECDB) のサービス開始
 10月 日本の化学文献データベース (CHEM-J) のサービス開始
 11月 ACOSシステム2020サービス開始



- 昭和63年 1月 スーパーコンピュータSX-2Nサービス開始

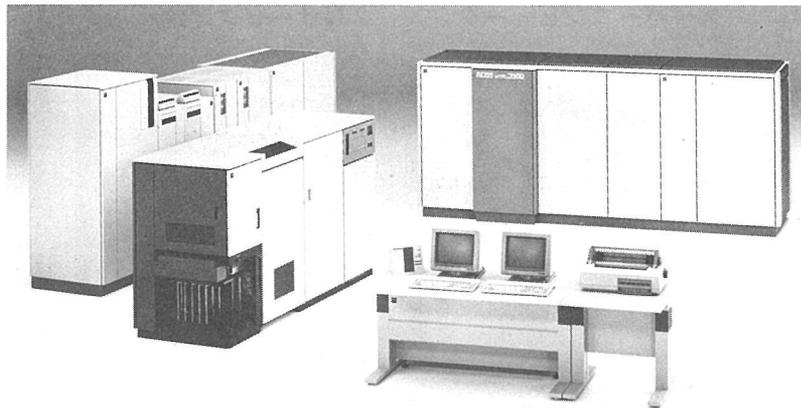


- 平成 2年 4月 松田治和教授センター長に就任
 5月 磁気テープ専用端末のサービス開始
 平成 3年 4月 大学間電子メール (MHS) のサービス開始
 交換回線用V.32 (300~9600bps) モデムのサービス開始
 ターミナルサーバ (ANNEX II) での交換回線 (外線・内線) サービス開始
 5月 INSネット64によるTSSサービス開始
 カット紙NIPのサービス開始
 IMSLライブラリ (SX用) のサービス開始
 7月 図形処理システムGKS (ACOS-6用) のサービス開始
 8月 日本語TeX (ACOS-6用) のサービス開始
 12月 ワークステーション (IRIS) のサービス開始
 平成 4年 5月 蛋白質および核酸データベース (FROG) のサービス開始
 9月 Kermit (ACOS用ファイル転送) のサービス開始
 10月 半経験的分子軌道法プログラムMOPAC (Ver. 6.02) および関連プログラムGLCAOのサービス開始
 12月 種子植物分類学文献データベース (TAXA) のサービス開始
 企業情報データベース (KIGYO) のサービス開始
 平成 5年 2月 スーパーコンピュータSX-3Rのサービス開始



カートリッジ型磁気テープ（ACOSシステム）のサービス開始

- 4月 寺田浩詔教授センター長に就任
- 5月 新スプール処理システムのサービス開始
- 9月 外国語担当オンライン・プログラム相談の開始
- 平成 6年 1月 ACOSシステム3900サービス開始



- 5月 大阪大学総合情報通信システム（ODINS）完成披露、大型計算機センター創立25周年記念式典

表1にシステム構成の変遷を示す。そして、図1にグラフにしてみた。

表1 システム構成の変遷

期 間	機 種	演算処理能力	主記憶容量	ディスク容量
昭和41年11月 ～昭和49年 7月	NEAC2200/500 &NEAC2200/200	0.22 MIPS	524 KC & 65 KC	135.6 MB
昭和45年10月 ～昭和49年 7月	NEAC2200/500	0.22 MIPS	393 KC	19.6 MB
昭和47年 2月 ～昭和49年 7月	NEAC2200/500	0.22 MIPS	524 KC	29.4 MB
昭和47年 3月 ～昭和52年12月	NEAC2200/700 (×2)	1.2 MIPS	1.048 MC	503.2 MB
昭和51年10月 ～昭和53年 5月	ACOS700	1.1 MIPS	1 MB	300 MB

期 間	機 種	演算処理能力	主記憶容量	ディスク容量
昭和53年 1月 ～昭和53年11月	ACOS800	2.0 MIPS	4 MB	2.4 GB
昭和53年11月 ～昭和57年 4月	ACOS900	3.4 MIPS	8 MB	6.2 GB
昭和57年 3月 ～昭和62年10月	ACOS1000	15 MIPS	80 MB	36.56 GB
昭和59年12月 ～昭和61年 3月	HFP	117 MFLOPS	32 MB	7.8 GB
昭和61年 4月 ～昭和62年12月	SX-1	570 MFLOPS	192 MB	10.4 GB
昭和62年11月 ～平成 5年12月	ACOS2000	47 MIPS	192 MB	84.8 GB
昭和63年 1月 ～平成 4年12月	SX-2N	1.14 GFLOPS	256 MB	31.8 GB
平成 5年 1月 ～	SX-3/14R	6.4 GFLOPS	1 GB	102 GB
平成 6年 1月 ～	ACOS3900	110 MIPS	256 MB	147.3 GB

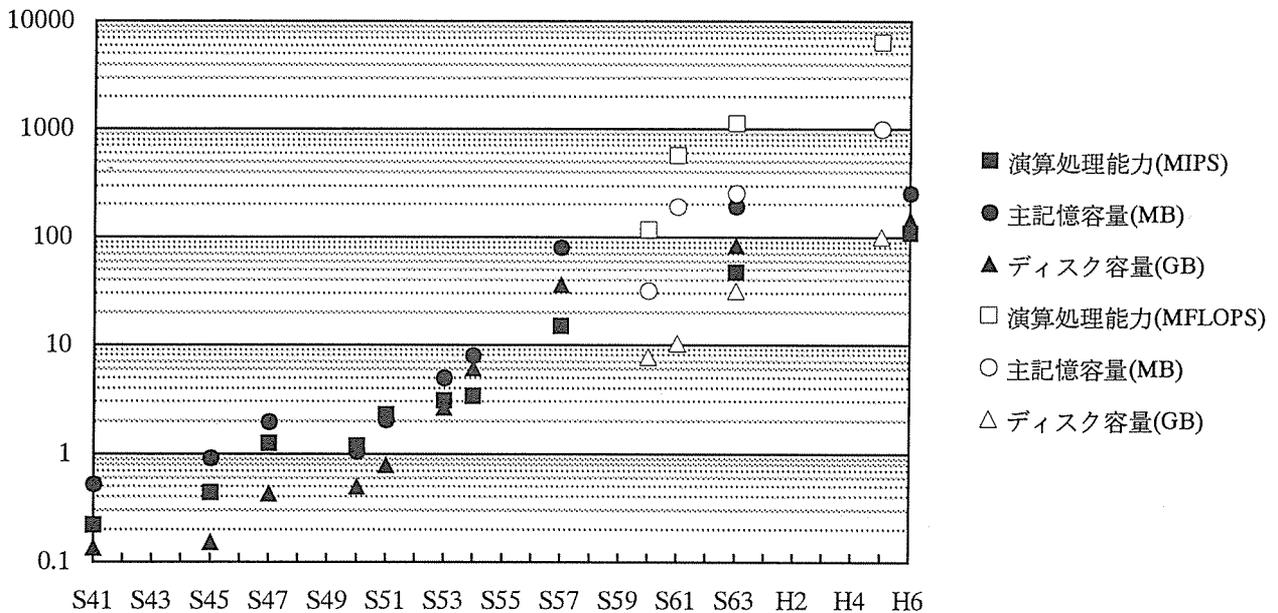


図1 システム構成の変遷

およそセンターにしか計算機がなかった設立当時から、WSやPCが研究者の手近にある近年まで、メインフレームの時代、スーパーコンピュータの時代と経て来たような感がある。さて次はどんな時代になるのでしょうか？世間では超並列計算機という声も聞こえてくるようですが、計算機資源は当然としてサービスもより充実させて行く必要があると思います。利用者の皆様のご意見、ご希望など遠慮無くお聞かせ下さい。